

事例の概要

名前 : 長野謙三さん
年齢 : 37歳
障がい : 知的障がい
療育手帳 : B2
障がい支援区分 : 区分3
居住サービス : 共同生活援助利用
日中サービス : 就労継続B型利用

◆成育歴

昭和55年長野家長男として誕生。父母と3人で幸せに暮らしていたが、謙三さんが10歳の時(平成2年)母が他界、それからは父との二人暮らしとなるが、母の死を乗り越え、楽しい事も悲しい事も二人で共有しながら幸せに暮らしていた。しかし父も高齢となり「もし自分にもしものことがあったら・・・」という、いわゆる「親なき後」の不安から、7年前(平成23年)父の勧めでグループホームに入居となった。

父とは暮らす場所は離れたが、交流は途切れることなく、謙三さんは自宅とホームを行き来していた。しかし・・・グループホーム入居から1年後、母に続き今度は父が他界してしまう。謙三さんの悲しみを押し量る事はできないが、何とかその悲しみを乗り越え現在に至っている。

謙三さんは天涯孤独となったかといえばそうではなく、隣町に叔父がおり、困った時は叔父に相談している様子で関係は良好である。実家は空き家となってしまったが、名義は謙三さんになっており隣町の叔父さんも年に何回かは訪れて管理している。謙三さん自身も自宅への思い入れからか、月に2回ほど庭の草刈りや雪片付けをするために一人で出かけている。

◆現在の状況

7年前から「ホームみゆきの」で生活されており、整容面(毎日の入浴や髭剃り等)で若干課題はあるものの人当たりもよく、「みゆきの」で一緒に暮らされているメンバーとも良い関係を築き現在もホームの生活を継続中。

日中は特別支援学校卒業後、18歳から利用している市内の就労継続B型事業所を利用しており、企業から委託されているプラスチック製品のバリ取りを行い、月に8千円程度の工賃を得ている。月に3回位寝坊して送迎車に乗り遅れてしまうことが玉に瑕だが、19年間通い続け、バリ取りの仕事も定着してきている。仕事の理解は声がけのみでは難しいが、何度も繰り返して行う事で精度を上げ自律的に行える。

平成29年6月よりOJTによる就労推進事業(企業と連携して現場実習を行い企業や仕事とのマッチング等を行う事により就労の促進を図る事業)により高齢者施設での清掃実習体験をきっかけに、清掃業務に対する意欲が高まった為、平成29年9月より事業所の高齢者施設清掃班に入る。それにより工賃も2万5千円となった。また、継続して清掃業務を行う事によりOJT事業時の清掃意欲が高まる要因ともなった「他者から褒められる」と言う評価が継続的にあったため更に清掃に対しての意欲が増してきている。

これまで謙三さん自身、就職を意識したことが無かったことから、B型事業所では就職活動等は全く行っていなかった。しかし平成29年12月に行われたモニタリング会議の中で「就職して実家から通いたい」と謙三さん自身から要望があったことから、これまで利用しているB型事業所と同じ法人が経営する就労移行支援事業所に平成30年2月1日よりサービス変更を行う事となった。

◆上記事例内容における相談支援専門員（信州春乃：しんしゅうはるの）の動き

12月に行われたモニタリング会議で謙三さんより「高齢者施設に就職したい」という要望を頂いたことにより就労移行支援のサービスを利用する事となった（これまで利用されていた就労Bと同じ法人で経営される事業所であるので、制度が変わって一般就労への支援となるがこれまでの清掃活動も継続しながら進んで行く）。

相談支援員は謙三さんのニーズに基づいたサービスをスタートさせるため正月明けの30年1月9日に謙三さんと面会、アセスメント票に沿って再度ニーズを聞き取り、それを基にサービス等利用計画（案）を作成した。

その計画案を基に1月16日には関係者を招集、サービス調整会議を開催。関係事業所に計画案の内容を周知して頂き支給決定。2月1日よりサービス（計画）スタートの段取りとなった。

◆上記事例内容における共同生活援助サビ管（中野晋一：なかのしんいち）の動き

これまでも7年間利用されているホームのサビ管であるので謙三さんの事は理解しているが、新たにサービス等利用計画の内容が変更されることも伴い、変更されたサービスを意識しながら1月22日再度アセスメント票に基づいて聞き取りを行った。